

子どもを事故から守る

わが国では、1～4歳の不慮の事故がその年齢層の死亡原因のトップで、事故のために毎年300人近くが死亡しています。この年齢は一生のうちで最も怪我の多い時期です。死亡事故1件に対して、死亡に至らないものの医療機関を受診するような事故は、その2,000～3,000倍も発生していると推定されます。

死亡につながる事故の原因としては、1)交通事故、2)溺水(浴槽など)、3)不慮の窒息、4)転落・転倒(階段、ベビーチェアなど)が主なものですが、このほかに、5)やけど(食事、ストーブなど)6)誤飲(タバコ、薬品など)もあげられます。

これらの事故のうち、2分の1～3分の2は保護者のちょっとした注意で防ぐことが可能です。この年齢はまだ自分で身を守ることができないので、自分の子どもの発育状況や、現在どれくらいのことのできるのかをよく知り、子どもを守ってあげてください。また、何が危険か安全かについて、子どもに少しずつ話してあげてください。